

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第5章 ソロモンとイスラエル後期のリーダーたちの祈り⑤



アサ

ヨシヤパテ

アサ

アサはその神、主に叫び求めて言った。「主よ。力の強い者を助けるのも、力のない者を助けるのも、あなたにあっては変わりはありません。私たちの神、主よ。私たちを助けてください。私たちはあなたに抛り頼み、御名によってこの大軍に当たります。主よ。あなたは私たちの神です。人間にすぎない者に、あなたに並ぶようなことはできないようにしてください。」（Ⅱ歴代誌14:11、また14:9-15を参照）

人が行う比較は、時として恐れを生み出す原因となり、誇張は信仰の敵となります。イスラエルの12人の斥候たちは、自分たちをカナン巨人たちと比べ、うち10人が自分たちをいなごに過ぎないとして、自らの大げさな描写の犠牲者となってしまいました。アサも、同様の失敗を犯してしまう危険性がありました。というのも、彼の軍勢は敵の半分ほどの数しかいなかったからです。百万人のエチオピア人に対して、彼の軍勢は58万人でした。しかしアサは、神の民には超自然的な力の源があることを知っていたので、数は重要なことではありませんでした。「力の強い者を助けるのも、力のない者を助けるのも、あなたにあっては変わりはありません」。信仰は、私たちの物の見方を変え、祈りの過程を通して神の力を生きて働くものとしてくれます。人間的な比較において何倍にも優るはずの力は、この神の御前では比較の対象にもならないのです。

アサは祈るにあたり、自らの信仰も告白しています。「私たちはあなたに抛り頼み」ます。休むこと、寄りかかること、より頼むことは、積極的な信仰の現れです。そして、「私たちは御名によってこの大軍に当たります」というアサの宣言は、確信に満ちた信頼を高らかに示すものでもあったのです（Ⅰサムエル17:45、使徒3:6を参照）。



恐れを感じないのは愚か者だけです。そして恐れは、時として私たちを混乱させるものであるとはいえ、ヨシャパテの例のように、とりわけそれが神へと導いてくれる場合には、私たちの友にもなり得ます。ヨシャパテのもとに何人かの人々が来て、強大な軍勢が迫っていることを伝える場面を見てみましょう。

ヨシャパテは恐れて、ただひたすら主に求め、ユダ全国に断食を布告した。ユダの人々は集まって来て、主の助けを求めた。すなわち、ユダのすべての町々から人々が出て来て、主を求めた。ヨシャパテは、主の宮にある新しい庭の前で、ユダとエルサレムの集団の中に立って、言った。

「私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神であり、また、あなたはすべての異邦の王国を支配なさる方ではありませんか。あなたの御手には力があり、勢いがあります。だれも、あなたと対抗してもちこたえうる者はありません。私たちの神よ。あなたはこの地の住民をあなたの民イスラエルの前から追い払い、これをとこしえにあなたの友アブラハムのすえに賜ったのではありませんか。彼らはそこに住み、あなたのため、御名のために、そこに聖所を建てて言いました。『もし、剣、さばき、疫病、ききんなどのわざわいが私たちに襲うようなことがあれば、私たちはこの宮の前、すなわち、あなたの御前に立って —あなたの御名はこの宮にあるからです— 私たちの苦難の中から、あなたに呼びわります。そのときには、あなたは聞いてお救いくださいます。』」

「ところが今、アモン人とモアブ人、およびセイル山の人々をご覧ください。この者たちは、イスラエルがエジプトの地を出て来たとき、イスラエルがそこに侵入することをあなたがお許しにならなかった者たちです。事実、イスラエルは彼らから離れ去り、これを根絶やしにすることはしませんでした。ご覧ください。彼らが私たちにしようとしていることを。彼らは、あなたが私たちに得させてくださったあなたの所有地から私たちに追い払おうとして来ました。私たちの神よ。あなたは彼らをさばいてくださらないのですか。私たちに立ち向かって来たこのおびただしい大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいかわかりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。」

ユダの人々は全員主の前に立っていた。彼らの幼子たち、妻たち、子どもたちも共にいた。

(Ⅱ歴代誌20:3-13)

これは、王家によって宣言された民全体の断食として記録されているものとしては最古のものであり、ここに示されているようにユダの全員によって行われています。自分たちに降りかかった絶望的な災難については、民全体が認識していました。これは、理由がはっきりとわからない災難でしたが、人生というのは、国であれ、教会であれ、家族であれ、個人であれ、そういうものです。

非常な困難というものは、時として全く予期せぬところに生じてくるものである。味方であったはずの力が、突然に敵となり、生き延びていくための頼みであった組織が、経済的な窮状に至って道連れにされるような危機に陥り、頼れる親友になってくれると約束してくれた、あるいはそうであった人々が、私たちに対立する存在、目指すものを阻む存在となり、明るくまばゆい朝が、曇った昼となり、激しい嵐が迫るようなものなのである。

ヨシャパテの祈り(Ⅱ歴代20:6-12)は、あらかじめ考えられていたものではないものの、旧約聖書の祈りの中でも最も優雅な祈りの一つであり、まさに模範的なものとなっています。自ら存在される方、永遠の方、契約をお守りになる方、遍在なる神であるヤハウェに向かい、この祈りは神を五つの面でほめたたえています。

1. この方は、私たちの先祖の(誠に満ちた)神である(20:6)。
2. この方は、天におられるが、全地を治めておられる(20:6)。
3. この方は、全能なる方である(20:6)。
4. この方は、ご自分の民であるイスラエルに土地を与えてくださった(20:7)。
5. この方は、私たちの唯一の望みである(20:12)。

ヨシャパテの力のこもった願い(Ⅱ歴代20:8-9)の念頭にあるのは、神殿を献堂した際のソロモンの祈り(Ⅰ列王8:33-45)でした。ヨシャパテの祈りは三つの部分に分けられます。

- ① 神のご指示により、イスラエルがアモン人、モアブ人、セイル山の人々に示した憐れみを思い起こしていただいている部分、
 - ② アモン人、モアブ人、エドム人が今や恩を仇で返してきている様子を考慮していただきたいという叫び、
 - ③ ユダが置かれている現在の苦境と明らかに絶望的な状況に照らし合わせて、助けとご介入をいただきたいという願い、
- の三つです。

注目に価するのは、ヨシャパテが神を信頼し、神により頼んでいるという告白と確認です。「ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです」(20:12)。神の介入を求めて祈る時には、切迫した状況に目を奪われるのではなく、神に目を留めていること、そうすれば確実に答えていただけます。

やがて、神の御霊がヤハジエルに臨み、ヤハジエルがヨシャパテにそのご指示を伝えたことで、勝利と喜びがもたらされました(20:14-28)-



? 質問

- 1 人の考えで比較を行なうと、どんな危険性がありますか？なぜアサは比較せずにはおられないような状況でも失敗をせずにすんだと思いますか？
- 2 信仰と祈りは私たちにどのような良い影響を与えてくれますか？
あなたには祈ることで自分の物の見方が変わったという経験がありますか？
あなたはアサのように神に抛り頼んでいると思いますか？
- 3 ヨシャパテは危機が迫り恐れを感じた時にどんな反応をしましたか？
あなたは恐れを感じた時、どんな反応をし、どんなことばを口にし、どんな行動をとっていますか？
- 4 ヨシャパテは危機に面した時でも神をほめたたえました。あなたは問題と恐れの中でどのように神をほめたたえていますか？
どうすれば神をほめたたえることができると思いますか？
- 5 ヨシャパテの祈りで注目に値することは何ですか？ あなたもヨシャパテのように祈っていますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？ どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

主よ。アサやヨシャパテのようにあなたの力を信じて抛り頼むことを私に教えて下さい。思いがけない問題に襲われることはしばしばあります。それでも、あなたの光の中でどんな問題をも見るができるように助けてください。」